

令和6年度 第3回 ゆうさくコミュニティ・スクール協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和7年1月8日(水) 午後2時から午後3時30分
- 2 開催場所 浜松市立雄踏小学校 会議室
- 3 出席委員 山田敏、楠野正人、坂田尚久、中村厚、山内勝己、村松美智子、
内山雅紀、加茂聡美(学校支援コーディネーター兼務)、
藏之上真人、宮崎純恵(学校支援コーディネーター兼務)
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 高橋宏典(校長)、高木悦代(教頭)、長坂明典(教頭)、服部優(主幹教諭)
能勢雅代(CSディレクター)
- 6 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 能勢雅代
- 9 議長の選出
司会の宮崎委員より年度当初の確認のとおり、山田会長に議長をお願いしたい旨の
申し入れがあり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - 【熟議】 ○授業参観から見える子供や教師の姿から
○学校評価の結果や学校のあり方について
 - 【報告】 ○二学期の取組について
○今後の取組予定について
 - 【連絡事項】 ○今後の運営委員会の予定について

11 会議記録

司会の宮崎委員から、委員総数10人のうち10人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

【熟議】 ○授業参観から見える子供や教師の姿から

議長の指示により服部主幹教諭から第一回のアンケート結果を基に2学期に取り組んだ内容について説明があった。また授業を見学し委員からは以下の発言があった。

- ・授業中の子供の言葉遣いと姿勢が気になった。また、先生はそこを指導しないのかと思った。(加茂委員)
- ・同じ意見である。友達感覚での指導なのかと感じた。子供たちが萎縮してしまう事も心配ではあるがその辺は先生に聞いてみたいと思った。(村松委員)
- ・同じ問題意識を持っている。アンケート結果から教職員も同じ問題意識は持っている事が分かる。時と場合をわきまえる指導が大切である。怖がらずプロとしての責任感を持つ事ができるような文化を職員室で作ろうと感じた。(校長)
- ・厳しい言葉をかけるのではなく一言添えて伝えるようにしてはいかかが。(加茂委員)
- ・叱ると怒るは違う。見たときが勝負でありその時に叱る必要がある。また叱る時は父母の関係が大事であり、のちにフォローすることも大切である。(山田会長)
- ・コミュニケーションの点では昔より取れていて良いと思う。家庭環境は希薄になっているので反省しないといけないし親として気をつけたい。(藏之上委員)
- ・時代的には仕方ないと思う部分もあるが、ある程度のところでの線引きは必要であり最

低限のラインの教育は今後家庭でも気をつけたい。(内山委員)

- ・中学年までに基本的なことを習得しておく事が常識を身に付ける事に繋がると思う。親の子に対する関心度が低いことも心配で親子の関係性も気になる。最低限の常識を教えることは家庭でしていただきたい。(山内委員)
- ・生きていくためには礼儀は必要である。気付くまで待つのではなく悪いことは信念と勇気を持って負けずに指導してほしい。(中村委員)
- ・指導するにあたり共通した指導内容で教員の足並みを揃えてほしい。(山田会長)
- ・机の並べ方を工夫してグループ学習しているクラスが多く、結果としてみんなが参加しやすい雰囲気を作られていて良かった。(坂田委員)
- ・工夫ある授業をしている事実を見てもらえたのはうれしく今後も頑張りたい。(校長)
- ・学校における躰とは授業の中の生徒指導である。低学年のうちに学びの構えを作ることが早道になることが多いので取り入れてほしい。鉛筆の持ち方も気になった。(楠野委員)
- ・言葉遣いが気になった。前提として正しいことを分かった上でざっくばらんに話すのであれば良いが、子供たちがどこまでその境目を理解出来るのか疑問である。(宮崎委員)
- ・言葉の暴力についてきつい言葉を使っている子がたくさんいる。悪い言葉という認識がない子もいるので言葉の善悪を教えてあげる機会を設けてあげてほしい。(村松委員)

【熟議】 ○学校評価の結果や学校のあり方について

議長の指示により服部主幹教諭から別紙資料の説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・問5 家庭学習の目標時間の項目で保護者と教員のギャップが大きく驚く。(坂田委員)
- ・保護者は何を基準にアンケートの答えているのか疑問。教員側は時間ではなく提出状況で判断していると思う。(藏之上委員)
- ・設問内容を「毎日の宿題をきちんと提出することができている。」などに変えたら誤解がなくなるのではないか。(内山委員)
- ・時間はあくまで目安であり家庭において一定時間学習する習慣づけをしたいというのが一番の目的である。(校長)
- ・特に高学年は宿題の量が少ないので低い評価に繋がっていると感じる。(宮崎委員)
- ・単純に回答ができるように実行してほしい。(山田会長)
- ・中学校では家庭学習の目標時間が急に多くなるのでしっかりと習慣づけしておくべきである。(楠野委員)
- ・親子の対話に関する文言を追加してほしい。(中村委員)
- ・問1の挨拶の項目に「地域の人にも」等の文言を追加してほしい。ここ数年は小中のコミュニティ・スクールの連携を図る重要性を強く感じている。(加茂委員)
- ・中学校の評価内容と共通点を見つけ出せば連携していけるので段階的に検討する。アンケートの文言、項目を修正していただき、それを年間通して使用していく形で来年度もいきたい。学校評価の進め方は今年度同様に進めていく。(山田会長)

【報告】 ○二学期の取組について

○今後の取組予定について

議長の指示により加茂委員より別紙資料に基づいて支援の内容の説明があった。

【連絡事項】 司会から次回は令和7年2月7日(金)14:00から会議室で開催する旨の報告があった。